

安全に関する訓練・技術継承

安全管理体制の維持・改善には、教育訓練が不可欠です。当社では、総合事故復旧訓練のほか、各種訓練を実施しています。また、鉄道施設や車両を維持するための技能を世代を超えて伝えていく技術の継承の取り組みにも力を入れています。

安全のための訓練

総合事故復旧訓練

列車事故など不測の事態を常に想定し、万全の体制を整備することが、鉄道を安心してご利用いただくために必要不可欠です。そのために当社では緊急時における対応力の強化を目的とした訓練を定期的に行っています。平成18年12月、「踏切から侵入した自動車が線路上を走行し列車と衝突、列車が脱線した」という事故を想定した「総合事故復旧訓練」を実施しました。警察署や消防署の協力のもと合計180名が参加し、人命救助・避難誘導・二次災害防止・正確な情報伝達がスムーズかつ確実に行えるよう、対応能力の強化を図りました。



総合事故復旧訓練

脱線復旧訓練

車両部門では、不測の事故等で車両が脱線した場合に備え、脱線復旧訓練を実施しています。平成18年度は年間3回(7月・12月・

3月)実施しました。また地下線等の狭い場所でも対応可能な新型の脱線復旧機材を平成18年度より導入しています。

平成18年12月は、総合事故復旧訓練を兼ねています。



脱線復旧訓練

地下線内火災想定訓練

地下線走行中に車両から発煙したことを想定し、「地下線内火災想定訓練」を運転士・車掌・駅係員・操車助役を対象に実施しています。最終列車発車後、訓練のために実際に地下線内で列車を走行させ、お客さまの救出、避難誘導、消火作業が迅速・的確に行えるよう、緊迫した訓練を行っています。冷静な判断力、作業員の連携を養い、万々に備えています。

技術の継承

電気部門の取り組み

電気部門では、安全作業や障害発生時の迅速な復旧等を目的とした「実設訓練」「障害復旧訓練」を毎年実施しており、係員の技術力向上に努めています。また、当社に出入りする請負業者に対しても、業務研修会を開催し、安全面・技能面における教育・訓練を行っています。



実設訓練の様子



請負業者に対する業務研修会

保線部門の取り組み

保線部門では平成16年より技術継承プログラム委員会を立ち上げ、現地研修(年2回)および机上研修(年4回)を実施し、技術力の向上に努めています。



現地研修
現地研修では、専門知識や経験が豊富な現場責任者が中心となって講師を務め、若手社員の技術力向上および技術継承に努めています。



机上研修
机上研修では、軌道に関するあらゆるテーマを取り上げ、発表や議論を通して、知識の習熟に努めています。

車両部門の取り組み

車両部門では作業手順書などを作成して技能・技術力の保持に努めていますが、今後の大量定年時代を鑑み平成13年11月から実施している技術勉強会を、より技能の継承にシフトしたものとして行っています。その他では指導者育成の研修会を開催し、修了者の指導により、技能継承が合理的に行えるようにしています。また中央職業能力開発協会より、高度熟練技能者として7名が認定を受けています。



技能継承の勉強会